

指定校番号	28034	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立川内小学校	校長	山田 明美	生徒指導主事	畑山 高義
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『川内っ子祭り』

取組のねらい『キーワード 相手の立場や気持ちを考えた行動』

- 他学年との交流を通して、互いを知り、相手の立場や気持ちを考えた行動がとれるようにする。
- 計画等を通して児童が主体的に活動できるようにする。
- クラスで協力して出し物を工夫することを通してクラスの団結を図り、祭りを楽しむことができるようにする。

取組の具体的内容『キーワード なかよく 協力 』

◎児童会が主となり運営計画を立て、全校で取り組む。

※ 地域にある連携教育を行っている4園の幼稚園、保育園も招待し、交流を行う。

○3年生以上の各学級で話し合っ、学級ごとのアトラクションをつくる。

○1学級1アトラクションで準備する。

- 3-1 「つって考え つりぼりゲーム」 3-2 「糸をよける」 3-3 「ミッションお宝めいろ」
- 3-4 「サンタのプレゼント集め」 3-5 「何があるのかな」 3-6 「海のわなげや」
- 4-1 「ブラックボックス」 4-2 「スーパーめいろブラザーズ」 4-3 「スターショット43」
- 4-4 「ジュニアカープ2016」 4-5 「風船ポンポンきょうそう」
- 5-1 「注文の多い迷路店」 5-2 「ストライクショットボーリング」
- 5-3 「おにたいじ大作戦」 5-4 「真暗めいろ」 5-5 「BKMA」
- 6-1 「KKSP」 6-2 「you rite aba me ～あなたの人生ゲーム～」
- 6-3 「We come to フルバヤシ」 6-4 「パリピ村」

ほほえみ「じゃんけん屋」

○時間を前半と後半に分かれる。

○出店するのは3学年以上。参加は全学年。

○児童は地図つきスタンプパスポートを持って移動する。



他学年に自分たちの考えたゲームを説明し、楽しませることによって共感的人間関係を育てる。楽しんでもらえるよう分かりやすく説明するなど相手意識をもって取り組む。

なにがはいつているのかなあ～？

園児に説明をして一緒に活動することで、自己肯定感を高めていく。小学生の子供と違って、もっと小さな子に対する声のかけ方や説明の仕方などを自分なりに工夫する。



～創意工夫～

様々な工夫を通して、来てくれた人が楽しんでくれたり、喜んでくれたりすることで自己肯定感を高めたり相手の立場を考える思いやりの心を育てたりする。



取組の課題・創意工夫『キーワード 有効活用 時間』

- 身の回りにあるものを有効活用して準備をする。また、自分たちの出し物をアピールするためにポスターをかく。
- 同じ場所にならないように、スタート場所を指定した。
- スタンプパスポートを持ち歩き、自分が、どこを回ったかを分かるようにする。
(行きたいところに計画的に回れるよう配慮)
- 限られた時間の中で、たくさん回れるように、短時間に班の全員が協力して楽しめる内容のゲームを考える。
- 今後、1・2学年の児童も、より達成感を味わうことができるような活動を工夫したい。

取組の成果（効果）『キーワード 自己決定の場と団結』

- 自分たちが、話し合いから、出し物を決定し出し物を運営することで、学級の団結を強めることができた。
- 他学年と交流することで、他学年の様子を理解しすることができ、今後の行事に生かせる。
- いろいろな人と繋がる喜びを味わう体験活動となっている。友達と分かり合える楽しさが実感できる体験活動と相互交流を行うことで、コミュニケーション能力を育むことができる。

今後の展開『キーワード 異年齢交流での自尊感情を育む』

- 他の学年（保・幼含む）との異学年交流をすることの意義を明確にし、次年度へ継承する。
- 異年齢交流する中で、高学年は、リーダーシップを発揮しながら、自分への気付きが増え、自分の良いところを伸ばすことができる。また、他学年の児童もそれぞれに活躍の場があり、自分なりに達成感をもった取組ができるよう、役割の明確化も計画に盛り込みたい。
- 多様な人との関わりを通して、自分が周りの人に役立っていることや周りの人への存在の大きさに気付くようになる。今後も高学年や児童会を中心とした活動を行うことで、異年齢の枠を超えた学校全体のコミュニケーションの場をつくっていききたい。

他校へのアドバイス『キーワード かかわる』

- コミュニケーション不足が原因でトラブルになることが多い今の子供たちに、「かかわる」機会をたくさん取り入れ、かかわり方のスキルを高めていくことが大切である。そのためにはどんな活動が必要かを児童自ら考え計画、実践できるよう、育てたい児童の姿を明確にもった支援が必要である。
- 年間行事の中にかかわる活動を位置付け計画的、継続的な活動となるようにする。